

胃ろうの手術の話は、実は3年前に聞いていた。喉の分離手術をするときである。直感的に嫌悪感が出た。自然の摂理という極まりない話だ。とまあ、こんな具合に親切にも元気づけようとしてくれた医師に毒づき、当惑させた。

こんな悪態ともいえるべき文句を並べる私がなぜ翻意して手術を受けたのかと言えば、症状の悪化が感じられて弱気になったのである。毎日飲む薬が苦痛になった。数が多くなるとともに、大きいのが増えたのである。

翻意した理由の一つは、もうひとつある。今年の3月に95歳を迎えた母がほぼ1年前に胃ろうをつけたのである。その手術に付き添った姉は帰宅後、こう証言した。

「簡単だったよ」

これがいけなかった。姉の言葉を真に受けた私は、胃ろうの手術は医者に行くほどの警戒感も、そして覚悟も、この時以来、持たなくなった。

「もちろん全身麻酔」

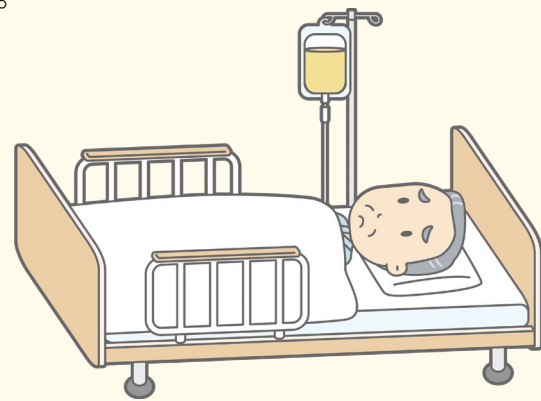
と姉は、きっぱりと言い切った。私が以前、肘を骨折した際、部分麻酔でひどいめにあったことを、ことあるごとに言いふらしていたからだ。

これまで私は全身麻酔で4回手術を受けた経験がある。中には10時間を超える手術もあったけれども、医師はそりゃ大変だったろう。

ところが、左肘の時にはひどい目にあった。神経麻酔とかいうヤツで、左腕一本まるごと麻酔をかけるといったものだった。

最初の神経麻酔の注射をしたと思ったら、雷に打たれたような衝撃を左半身に受けた。手術台から10cm跳び上がったほどである。もう一つ苦痛を受けたことがある。突然越境するのである。つまり麻酔の効いていない領域を切ったりするわけだ。医師の手には電動のこぎり……「ギャー」という叫び声を合図に二人の看護師が飛び掛かってベッドの私の手足を押さえる見事な連携プレーであった。そんなこと4～5時間のうちに一度でもあれば寝ているところではない。これが10年前の部分麻酔での悲惨な思い出——

時は下って2024年2月胃ろうの手術の当日に戻る。その日は朝から病室は、重い緊張感に包まれていた、と感じていたのは、私だけかもしれない。だが、埼玉県でこれほどの大病院は珍しいのに、その日は朝から、病室には担当の看護師見習いみたいな女の子一人しか見かけなかった。その日のスケジュールさえ説明に来なかった。



研修会に参加しました！

2025年1月26日 日本リハビリテーション専門学校で開催された専門リハビリテーション研究会に参加し、「その人らしい暮らしを再構築する地域リハビリテーションアプローチ」をみんなで学んできました。



日本維新の会 参議院議員の山口和之先生にもお会いしました。

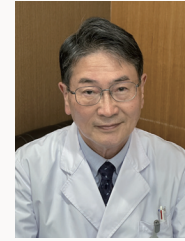
SNS やってます！



YouTube



Instagram



ももむらしんいち
百村伸一
新院長
ごあいさつ

地域住民の皆様、そして医療、介護、福祉関係者の方々、よろしくお願いいたします。

2025年4月より犬飼前院長の後を継いで院長に就任いたしました。私は2006年に自治医科大学附属さいたま医療センター（当時大宮医療センター）に循環器科教授として着任し、その後自治医科大学附属さいたま医療センターのセンター長（院長）を8年間、さらに2020年からはさいたま市民医療センターの院長を5年間務め、20年近くにわたりさいたま市で医療に携わってまいりました。

このたび、西部総合病院の院長を拝命いただき、さらに地域に密着した医療に貢献できますことを大変うれしく思っています。さいたま市は高齢化が急速に進んでいます。高齢化に伴い増加するのはがんではなく、脳卒中や心不全などの循環器系（心臓や血管）の病気、肺炎、大腿骨骨折などです。このような疾患の増加に伴い、さいたま市では高齢の方の救急要請が増加していますが、救急搬送困難例も少なくありません。

私たちは急性期病棟を中心として、高齢者の救急搬送にできる限り対応して参ります。さらに急性期を過ぎ、ある程度落ち着いた患者さんには、地域包括ケア病棟ですごしていただき、在宅や介護施設への復帰を支援してまいります。（HP抜粋）

百村伸一 院長
紹介ページは
こちら



2025年4月1日から
外来診療担当医表が
新しくなりました



健康寿命を延ばそう！！

介護予防シリーズ 第9回 認知症予防について学ぼう

生活習慣を見直すことは、生活習慣病の予防にもなり、認知症の発症や進行を緩やかにすることがある場合があります。脳の活性化についてのポイントを押さえていきましょう。趣味を楽しむことは、思考力・集中力を養います。また、積極的に人とコミュニケーションをとることも大切です。ご家族やご近所の方と、たくさんおしゃべりをしましょう。



オレンジカフェに参加して、地域の方と交流しながら認知症について学ぶのも効果的です。

さいたま市オレンジカフェ情報は



⇨こちら（二次元コード）
次号では、さいたま市の新たな認知症施策について解説していきます。

やってみよう！！



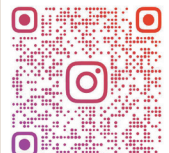
認知症予防のためのコグニサイズ



今回は「コグニサイズ」をご紹介します。「コグニサイズ」は、コグニション（認知機能）とエクササイズ（運動）を合わせた言葉で、脳への刺激が期待される運動です。動画を見ながら一緒にやってみましょう！！



【Youtube】



【Instagram】

2025年 桜

春の淡い夢をそっと咲かせて、
心に静かな余韻を残してくれました。

